

# 農業委員会 だより

発行:新島村農業委員会

編集:新島村農業委員会広報部会

〔今期担当:石野正幸、前田忠徳  
森田 一〕

農業委員会事務局 (役場内)

5-0284 (直通)

## 農地の利用状況調査

農業委員会は、遊休農地の発生防止を目的として、「毎年1回農地の利用状況の調査」を農地法第30条で義務付けられています。



遊休農地 (不耕作地)

新島村では9月〜11月にかけて、農業委員、推進委員が利用状況調査を行うため、農地に立ち入ることもございますが、ご了承ください。

なお、管理が不十分な農地の所有者に対し、利用意向調査を送付いたしますので、ご協力お願いします。

(利用状況調査は、人による調査のため、境界が不明瞭な当村の農地において正確な結果とならない場合もございます。また、「農地の利用」

とは、肥培管理のされた農地をいうため、椿を捨うだけの農地、雑草と混在した畑などは、不耕作地と判断されてしまうことをご了承ください。

### ダメ!! 不法投棄

農地。パトロールの際に見ると、「畑に似つかわしくないゴミ」。空き缶や、ペットボトル、金属、最近では産業廃棄物なども見受けられます。

こういったゴミは何年たっても土に返ることはなく、その後の土や作物に影響を与え、それを口にする人体にも悪影響を及ぼします。つまり、畑としては致命的な障害となります。



上...の...を...と...を...捨...木...草...を...捨...を...捨...を...捨...

他人の農地へはもちろん、ご自身の所有の農地においても、ゴミの投棄は決して行わないでください。

また、例え伐採枝や雑草であっても、他人の所有する農地に勝手に投棄してはいけません。農地を汚せば、他のゴミ投棄を招くことになります。

不法投棄は犯罪です。ゴミや伐採枝、抜いた草などは、必ず決められた場所に捨てるようお願いいたします。

### 農作物の盗難

今年に入り、農作物の盗難や農地への不法侵入に関する相談が増えていきます。現金を盗むことに比べ、軽く感じる方もいるかもしれません。

しかし、作物が収穫できるまで、どれだけの労力と費用が掛かっているか、よくお考えください。また、農家にとって、生産物は生計の基盤であると共に、愛情を注いで育てた、子供や孫の様な存在であることを忘れないでください。

農家の方も、「管理している畑」と分かるよう、ネットで囲む等といった工夫をし、地域のみんなで、新島育ちの元気な作物が島内外で見られるよう、協力しましょう。

# 「地産地消」

地元産の農産物や加工品を扱う直売所が全国的に増えており、新島でも農協やスーパーで地元産直売コーナーが設けられています。



新島農協の直売所

地元の産物を地元で消費する「地産地消」を進めるためには、地域の生産者と消費者の協力が不可欠です。

「消費」には、地元にお金を「落とす」消費とそうでない消費があります。例えば、三百円のキャベツを購入するとき、地元産を買うと三百円全額地元にお金が落ち、キャベツ生産者に還元されます。その生産者はキャベツを作るための資材や肥料を地元商店から購入することでお金が地域内で循環します。

これが地元にお金が落ちる「循環

型経済」であり、地域の経済を豊かにします。地域住民みんなで、この循環型経済を作り上げる一環である「地産地消」に乗り出し、ぜひ地元産の新鮮な野菜を手にとることから始めてみませんか。（前田忠徳）



モノが過剰に流通する中、消費者は個性的なもの・ものにまつわる物語を求めています。都市生活者の中には、貸農園や自家菜園で野菜づくりをする方も増えており、自給を基礎におく農業に魅力を感じています。

新島は内地と比べ、流通のハンデがあるため自給自足をしてきましたが、交通事情が大幅に改善されるとともに、伝統的自給農業（ナエバでの野菜生産）は衰退してしまいました。

新島では農業と生活が密接に結び、現代に生きる都市生活者が憧れを抱く生活が確実に存在しており、こういった島民生活、島の雰囲気、都市消費者を魅了し、村と都市の消

費者を結ぶ可能性となります。

例えば、**伝統的自給農業**で生産された野菜を、仮に「新島ナエバ野菜」と銘打って新島文化の歴史を添えて販売することで、消費者にとって魅力的と感じないでしょうか。

ナエバには島で暮らす人々の物語が多くあります。これらを掘り起し、都市生活者に紹介し販売することで、新島農業再生のきっかけになると考えています。「ナエバ文化の復活」を目指して、皆さんも自給自足の農業をはじめませんか？（石野正幸）



記録的な猛暑が続いておりますが、皆さんの作物は順調に生育していますでしょうか。

私は今年、5年ぶりにあめりか芋の栽培に挑戦しています。準備が遅れ、苗はふれあい農園と地元農家の余苗を頂いて、一反歩弱の畑に三千本近い苗を植え付けました。

植付が6月末となり、私が植え付け終わった頃には、近所の畑の苗は畝の上面を青く覆っていたのに対し、私の畑の苗は雨が降らないこともあり、萎れて見る影もないほどでした。しかし、植付が終わってまだ四十日足らず、この間雨らしい雨は、台風12号による雨しかなく、この暑さの中、私は水もやれませんでした。：にも関わらず今は、畑一面土が見えない程青々と盛り上がっております。



あめりか芋の様子  
(久田巻城ノ下)

先祖から伝わったあめりか芋の生命力の強さに改めて感服しています。以前、明日葉栽培をしながら、あめりか芋を栽培したこともありましたが、今回の再挑戦で、来年に繋がる成果を期待している所です。（森田一）